

令和8年 第2回定例会

公社の経営状況報告がありました

令和8年第2回定例会で吉岡町振興公社の経営状況報告が行われました。吉岡町振興公社とは町が100%出資している公社で、道の駅よしおか温泉・リバートピア吉岡・緑地運動公園・物産館かざぐるまの※指定管理を受けています。

令和7年度（第24期）は、経営改革と温泉入館料の改定、道の駅イベント開催により、売上高2億4801万円を達成し、前年比で大幅な増収となりました。しかし、人件費や一般管理費の増加により、営業利益はマイナス、経常利益も992万円のマイナスを計上しました。温泉施設の入館者数は前年比9%マイナスとなり、前年の価格改定が入館者数に影響したと考えられます。また緑地運動公園の利用者数も減少しました。一方でレストランや物産館を含めた温泉施設全体の売り上げは前年比9%増となっており、今までの経営改革の効果も現れている結果となりました。

令和8年度（第25期）は、他の道の駅施設にはない複合施設としての優位性を前面に打ち出した取り組みを進め、ホームページの内容充実、インスタグラムやLINEなどのSNSを積極的に活用し、利用人数の増加に取り組めます。これにより、経常利益139万円、当期純利益122万円を目指し、さらなる経営改善を図る計画です。



温泉施設全体としては売り上げ増、物産館も売り上げ増

※指定管理

町が指定する法人や団体へ施設の管理を委任して行わせることです。道の駅よしおか温泉・リバートピア吉岡・緑地運動公園・物産館かざぐるまの運営管理を、令和7年4月から令和12年3月まで5年間委任しています。



緑地運動公園利用者減、ケイマンゴルフで売り上げ増

Q 入館者数の減少は料金改定によるとの分析があったが、本来の目的は町民への福祉であり、町民の利用を増やすべきではないのか。

A 福祉の面も考えながら利用者満足度を向上させ、入館者数の回復と収益性の両立を図っていく。

Q 物産館の経営は、町にも良く、生産者にも良く、利用者にも良い、三方が良くなる方法を追求してほしいが。

A 売場を見直すなどして施設全体で相乗効果を高め、地域交流・健康・観光の拠点として持続可能な公社の経営を目指していく。

Q 当期純利益赤字の原因分析は。

A 赤字の主因は物価高騰や人件費、一般管理費増加の影響によるものとする。

Q 無料招待券配布を続けることで予想される赤字はどうするのか。

A 福祉の観点も考慮し、経営状況を見ながら続けていき、また経営努力によってカバーしていきたい。